

全国協議会 ニュース

2010年9月1日発行
第219号

発行所
特定非営利活動法人
全国骨髓バンク
推進連絡協議会
〒160-0005 東京都
新宿区愛住町23-1
Woody21-9階
TEL.(03)3356-8217
FAX.(03)3356-8637
発行責任者:中野勝博
http://www.marow.or.jp/
E-mail:office@marow.or.jp

郵便振替口座
00150-4-15754
銀行口座
三井住友銀行 新宿通支店
普通 5666655

非血縁者間末梢血幹細胞移植 10月からの導入を審議会で確認

8月5日、2年2か月ぶりに開催された厚生科学審議会疾病対策部会造血幹細胞移植委員会(以下、審議会)の席上で、骨髄バンク事業における、非血縁者間末梢血幹細胞移植(以下、非血縁P B移植)の導入が、正式に確認されました。

非血縁P B移植導入については、今から8年前の2002年の審議会において最初の検討がされましたが、翌2003年に血縁者での末梢血幹細胞移植のドナーが白血病で死亡した事例が報告されたことで、安全性が疑問視され、検討は一時中断、造血細胞移植学会(以下、学会)での血縁者間移植でのフォローアップ状況の報告のみが続けられていました。

2008年3月に行われた審議会において、学会から調査報告がなされ、骨髄バンクでの非血縁P B移植の実施にむけた早期準備が提言され、それを受けて骨髄移植推進財団では同年7月より、P B S C Tに関する委員会にて導入に向けた具体的な検討を開始し、その結果を踏まえて今回の正式導入となりました。

学会や厚生労働科学研究班のその後の調査・研究により、ドナーの安全性や患者の生存率が高いこと、諸外国ではP

B移植が標準治療であり、導入されることでドナーと患者に選択の機会が確保され、より多くの患者救命に繋がることが報告されました。財団からも、採取前後の安全管理体制、健康被害発生時の対応についての検討結果が報告され、導入について委員からは特に異議は唱えられませんでした。

導入の背景には、麻酔医の不足、手術室確保の困難さ等、採取施設側の問題も少なからずあるようです。

10月からの実施にあたっては、P B移植は一定の条件を満たす一部のドナーに限って選択でき、また採取や移植も一部の施設に限って行なわれます。

ドナーは、①理解が求められやすいということ、骨髄バンクでの骨髄提供経験者であること ②HLAが遺伝子レベルで8つ全部一致していること ③連続した期間、G-CSFを投与するために決められた採取施設に通うことができること が条件になります。

G-CSFは4〜6日連日投与されることになるのですが、入院か通院かは施設判断によるそうです。

10年間のフォローアップ調査での結果はあるものの、それ以上の長期安全性については

は、今後の研究課題として残っています。

3泊4日の骨髄採取でさえ難色を示す人も多いために、限られた施設に数日間通院し、薬剤投与を受けた上で入院して採取を行うことを、登録呼びかけの短い時間の中でどこまで理解を広げられるものなのか。さらに言えば、全国で千人以上いる全ての説明員に対して、登録呼びかけのために必要な非血縁P B移植についての情報提供・研修がおこなえるのかどうか……。

不安をあげれば、キリがありませんが、とにかく10月から試行的であれ非血縁P B移植は実施されます。

全国協議会としては、これまで可能な限り委員会を傍聴し、各地団体のメンバーと共に学習してきました。10年に渡るフォローアップ調査を実施した血液内科医の取り組み、委員会メンバーの真摯な議論があつての事業開始であると認識しております。

ひとりでも多くの患者救命につながることはもちろん大切なことですが、利便性だけではなく、ドナー側に立った安全性重視の観点で本事業を見守り、状況によっては真の意味での患者とドナーのシステムになるように進言していかなければならぬと考えます。

この結果はあるものの、それ以上の長期安全性については

東京の会裁判で判決

全国協議会加盟団体である「公的骨髓バンクを支援する東京の会」の会報「東京の会通信」の2つの記事を巡り、骨髄移植推進財団元常務理事堀之内敬氏が、東京の会および作家で元財団職員の高藤允氏を相手取って、記事の削除と1000万円の損害賠償を求めて起こした裁判で、7月26日東京地裁において、判決が行われました。

判決は記事の一部削除と30万円の損害賠償を命じるもので、東京の会にとつて厳しい結果となりましたが、東京の会は議論の未控訴しないことを決定し、加盟団体や支援者宛に報告と支援へのお礼の文書を発信しました。東京の会が文書の中で明らかにした会としての判断の概要は以下の通りです。

①判決は削除の対象となつた会報の2つの記事について、「専ら公益を図る目的に出たもの」であり、「原告に対する人格攻撃や中傷等が目的であつたと認められない」として、公益性を認めている。

②記事、特に高藤允氏の投稿記事に多く指摘されている原告に関する事実関係について、立証が不十分であつたことから今回の判決になったが、執筆者の遠藤允氏より、ジャーナリストとしてニュースソースを秘匿するとの意思表示があり、控訴断念の意向も示されたことから、これ以上の証言・証拠を控訴審に提示することは困難と判断した。他方、編集者雑記の記事については、事実関係について、判決は「被

告会が上記摘示事項が真実であると信ずるについて相当な当」として、東京の会の主張を概ね認めている。

③財団元総務部長、山崎裕一氏の解雇に係る労働契約上の地位確保裁判で、山崎氏の財団復帰を認める和解協定が成立し、離職者の減少や職員定着化に向けた措置が講じられていることなどから、東京の会の目指した財団の正常な労働環境整備に向けて一定程度の改善がみられ、本裁判をおこなつた意義はそれなりに

達成されたと考えられる。全国協議会は今ままで、裁判の経過報告と東京の会への支援を呼びかける集会を開催するなど、側面から支援してきました。判決結果は残念なものとなりましたが、一方で東京の会の主張もかなり認められており、「本来の活動に専念したい」とする東京の会の判断を全国協議会として支持するものです。支援いただいた加盟団体および個人の皆さまに、東京の会とともにあらためて感謝いたします。

20周年記念大会 こぼれ話

6月5日に全国協議会設立20周年記念大会を開催したことは本紙217号でお伝えしたとおりです。当日、これまで長年にわたつてご支援・ご協力いただきました皆様に、感謝状と記念品をお贈りしました。

この記念品を作つてくださったのは陶芸家 神山清子さんでした。神山さんは息子さん(白血病を発症され、

骨髄バンク設立運動にご尽力くださいました。映画「火火」のモデルでもあり、映画では当時の様子も描かれています。記念品と共に届きました神山さんからの手紙をご紹介します。

設立20周年おめでとうございませう。この度、記念品としてお使い頂きます事心より厚くお礼申し上げます。

当日は、東京大学医学研究所付属病院の東條有伸先生

このカップは、「火火」の映画の中で一番苦しい生活の中を救ってくれた製品です。で、田中裕子さんが練習された本人の手が映像に出ています。私の出発点であります。6月2日 神山 清子

各地のたより
お寄せください。

山形 県民の期待を担って
記念事業を計画

7月26日、山形放送愛の事業団の2010年度福祉援助・助成贈呈式が、山形メディアタワーで行われ「骨髄バンクを支援するやまがたの会」も出席いたしました。

山形放送愛の事業団では県民から寄せられた善意を基に、地道に活動を続ける施設・団体に毎年援助しています。これまでも数回プロジェクトやプリンターを提供戴いておりましたが、今回は初めて、助成金として30万円をいただきました。感謝!!の言葉に尽きます。

「やまがたの会」では、設立15周年記念事業「医療講演会&患者相談」を10月16日、山形市総合福祉センターで開催を予定しています。

当日は、東京大学医学研究所付属病院の東條有伸先生



心からのご寄付に 感謝申し上げます

7月21日~8月20日

㈱タクトコーポレーション	現金	10,000円
エグゼキューブ(株)	現金	9,100円
山田 康博	現金	9,880円
塩谷 泰人	現金	1,000円
鈴木 純子	現金	1,340円
匿名	現金	5,000円
匿名	現金	5,000円

●白血病患者支援基金		
やきとりおばこ	現金	5,000円
ブルデンシャル生命保険(株)	現金	404,520円
支援ナイター会場券金箱	現金	258,924円
樋口 勇一	現金	4,000円
中村 健市	現金	5,000円
●佐藤さち子患者支援基金		
トリイ サヤカ	現金	10,000円
櫻井 守	現金	3,000円
梅原 保	現金	20,000円

活動資金の援助をお願いします
銀行口座
三井住友銀行 新宿通支店
普通 5666655
郵便振替口座
00150-4-15754
特定非営利活動法人
全国骨髓バンク推進連絡協議会

思いをつなぐいのちをつなぐ 「骨髄バンク支援ナイター」開催

8月19日、東京ドームに於いて、プルデンシャル生命保険株式会社(以下、POJ)の特別協賛による北海道日本ハムファイターズ主催「骨髄バンク支援ナイター」vs千葉ロッテマリーンズ戦が開催されました。

当協議会のボランティア(釧路・埼玉・千葉・東京・神奈川から総勢20名)とPOJの社員ボランティアが一緒になって、内野席2階コンコースを中心に6ゲート・7ブースで、大きな声を出しながら笑顔で骨髄バンクの普及啓発活動・募金活動・ドナー登録説明会を実施しました。

約3時間の活動で、来場者の皆さんの温かいご厚意により、多くの募金が寄せられました。一方グラウンドでは、試合前に両チーム監督・選手代表への花束贈呈が行われ、大谷会長のほか、骨髄バンクを介して移植を受けて元氣になった笹森ゆきのさん、患者家族の代表として飯田未央さん、そ



バックスクリーンで支援ナイターの紹介



PRブースで熱心な呼びかけ

して女優の東ちづるさんもご協力くださり、花を添えていただきました。

引き続きの始球式では、静岡県在住・元患者の飯田瞬君(中学3年生)が野球部のユニフォームを着て、堂々たるマウンド捌きから低めいっぴいのストレートを投げ、ロッテ・西岡選手のバットが空を切る観客席から大きな拍手が送られました。

また、内野自由席には約30名の患者さんやそのご家族の皆さんをご招待し、プロの華麗なプレーを堪能して頂きました。

試合は残念ながら日本ハムが負けてしまいましたが、プルデンシャル生命保険株式会社より、当日の入場者数及び両チームの合計ヒット数に基づいた寄付をいただきました。ご協力頂きました皆さま、本当にありがとうございます。(菅原)

◆プルデンシャル生命保険株式会社 第二営業本部長 永田元久氏
この度は暑い中、本当にお疲れ様でした。
今回は、弊社第二営業本部



女優の東ちづるさんも花束贈呈に参加

これからは私共でできる部分については、是非ともお手伝いをお願いします。22番ブースでは詳しい説明も聞けて良かったです。

社会貢献活動はよく耳にしますが、個人で出来ることもあるけれど、厳しい社会情勢の中で、このような形で企業がバックアップしてくださることは、今も病と闘う患者仲間がいるだけに、とても有り難く感じました。



力のこもった始球式

◆観戦された田中俊昭さん
4年前に悪性リンパ腫を発症、その後移植を受けて、いまでは愛犬と散歩ができるまでになりました。今回ご縁があつて、案内をいただき患者仲間と共に観戦しました。

募金活動以外にも飯田瞬君の始球式や花束贈呈など当日約2万5千人の観客の皆様にも微力ながら骨髄バンクの存在や意義をアピールするお手伝いをさせていただくことが出来たのではないかと思います。

皆様の活動に少しでも協力させていただける機会をいただきまして改めて感謝申し上げます。

このような支援イベントに参加したのは初めてだったのですが、いくつもブースが設置され、各所で、社員の皆さんやボランティアさんが熱心に呼びかけをされている姿を見て、元患者としては「多くの方々に応援してもらっているのだなあ」と、頼もしく感じました。22番ブースでは詳しい説明も聞けて良かったです。

◆埼玉の会
富栄 美穂子さん
骨髄バンク支援ナイターにボランティアとして参加いたしました。

開門前から人、人、人……私も久しぶりの東京ドームでワクワク・ドキドキ。
プルデンシャルの社員さん達と大きな声を上げての呼びかけ！キティちゃんうちわを持ってバンクへのご支援、ドナー登録へのご協力をお願いしました。

近くでは少年野球チームのかわいい呼びかけ。いつの時代も子供達にはかないません。その甲斐あつて大勢の

10月24日国立競技場において「2010グリーンリボンランニングフェスティバル」(主催・NPO日本移植者協議会ほか)が開催されます。今年も、患者さんやドナーさんと共に骨髄バンクを応援するボランティアがこのイベントに参加し疾走します。

分かち合おう命の素晴らしさを 応援ボランティア募集!

募がありました。応募頂いたランナーの方には、当日たすきを掛けて骨髄バンクのPRをしつつ、コースを駆け抜けてもらいます。「走れないけど骨髄バンクを応援したい」という方は沿道の応援ボランティアとして、それぞれの思いをランナーに託せたらと思います。

もちろん当日は臓器移植を受けたランナーも走ります。みんなと一緒にすべてのランナーを応援しませんか。



参加お申し込みは事務局まで
Tel 03-3356-8217
Fax 03-3356-8637
e-mail info@marrow.or.jp

20周年事業協賛金 (7/21~8/20)	
小林 鈴子	3,000円



入場者数&ヒット数に乘じたご寄付をいただきました

方々に募金のご協力いただきました。短い時間でしたが、プルデンシャルの皆さんと、また、ボランティアの仲間との楽しい時間を共有することが出来ました。中学3年生の元患者さんの始球式も感動でした！全国協議会、プルデンシャルの皆さん、お疲れ様でした。

骨髄バンクの最新情報をお知らせする

(財団マンスリーJMDP(8月15日発行)より抜粋)

●厚生科学審議会で骨髄バンク事業への末梢血幹細胞移植の導入を確認
8月5日(木)17時より、厚生労働省において、第31回厚生科学審議会疾病対策部会造血幹細胞移植委員会が開催され、①骨髄バンクおよびさい帯血バンクの現状について、②骨髄バンク事業への末梢血幹細胞移植の導入について、③造血幹細胞移植におけるクローンフェルト・ヤコブ病の取り扱いについて等が報告、審議されました。

まず、骨髄バンク事業への末梢血幹細胞移植の導入について審議が行われました。日本造血幹細胞移植学会の小寺良尚会長から、血縁者間末梢血幹細胞ドナーフォローアップ事業に関する報告があり、学会の定めたガイドラインを遵守する限りにおいては、末梢血幹細胞採取ドナーの短期および中・長期の安全性が確認されたとして、骨髄バンクが末梢血幹細胞移植の実施に向けて早急に準備を開始することは妥当かつ必要であるとの報告がありました。

次に、厚生労働科学研究「同種末梢血幹細胞移植を非血縁間で行う場合の医学、医療、社会基盤に関する研究班」の主任研究員であり、財団「PBSCに関する委員会」委員である宮村耕一医師から、「非血縁者間における末梢血幹細胞移植の導入に向けた安全性および実施体制について」説明がありました。末梢血幹細胞移植は、欧米では約10年前から実施されており標準的な医療となっているが、これを導入することでドナーと患者に選択の機会が確保され、より多くの患者の命を救うことができるとし、導入の意義等について説明しました。また、末梢血幹細胞移植と骨髄移植

の患者の生存率を比較した図を紹介し、非寛解期においては末梢血幹細胞移植が骨髄移植よりも生存率が高いことを報告しました。

また、骨髄移植推進財団の坂田ドナーコーディネーター部長より、導入に当たっては安全性、確実性を重視することを前提とし、G-CSF投与期間中のドナー安全管理体制、PBSC提供後のフォローアップ体制、健康被害発生時の体制等の検討結果を報告しました。

説明後、委員による質疑、応答が行われた結果、骨髄バンク事業への末梢血幹細胞移植の導入が確認されました。これを受けて、財団では本年10月からの導入を目処とし、末梢血幹細胞採取・移植施設認定が完了した施設から導入を開始する予定です。

なお、当初は安全かつ確実に導入を進めるために、対象ドナーは、①骨髄の提供履歴があること、②HLAが遺伝子レベルで8/8一致していること、③PBSC採取施設に通院可能なこと、を条件として限定的に実施していく予定です。

●変異型クローンフェルト・ヤコブ病の対応について
前述「1」の委員会での審議結果をふまえて、骨髄のあっせんに係る変異型クローンフェルト・ヤコブ病に関する取り扱いについて、献血において本年1月27日より緩和された英国滞歴に関する献血制限に準じ、1980年から1996年の英国滞歴の制限を、「1日以上(1泊以上)から「通算1カ月以上」(31日以上)に緩和することとされました。これにより、通算30日以下の英国滞歴の方であれば、コーディネーター進行が可能になります。その他の部分の対応については従来どおりです。対応開始時期について

骨髄バンク NOW

は、国からの通知が発出され次第になります。

●財団の会議開催予定
傍聴をご希望の方は、事前に財団事務局総務部までお申し込みください。
常任理事会 公開・一部非公開 9月15日(水)17:30~廣瀬第1ビル2階会議室

◆日本骨髄バンクの現状(平成22年7月末現在)

	6月	7月	現在数	累計数
ドナー登録者数	2,766	3,014	364,616	470,954
患者登録者数	234	235	2,718	30,776
骨髄移植例数	119	115	-	11,997
20歳未満ドナー登録者	-	222	12,865 ¹⁾	-
51歳以上ドナー	204 ²⁾	109 ³⁾	19,239 ⁴⁾	-

■7月の区別ドナー登録者数: 献血ルーム/847人、献血併行型集団登録会/2,037人、集団登録会/68人、その他/62人

注) 数値は速報値のため次月以降に訂正されることがあります。
*1) 17年3月~ *2) 51歳以上ドナーの延長数 *3) 51歳以上ドナーの新規登録数 *4) 17年9月~

